

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと）

本資料は、文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。
下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

- ◆ここに示されているものは、あくまで例であり、これ以外は「合理的配慮」として提供する必要がないということではありません。
- ◆複数の障がいを併せ有する場合には、各障がい種別に例示している「合理的配慮」を柔軟に組み合わせ検討しましょう。
- ◆記載していない項目についても、「合理的配慮」として提供する必要がないというものではありません。一人一人の障がいの状態や教育的ニーズ等に応じて検討しましょう。

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと） 病弱

※文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

◎服薬管理や環境調整、病状に応じた対応等ができるように指導を行う。

- ・服薬の意味と定期的な服薬の必要性を理解できるように指導を行う。
- ・指示された服薬量を徹底するように指導を行う。
- ・眠気を伴い危険性が生じる等の薬の副作用の理解とその対応ができるように指導を行う。
- ・必要に応じた休憩するなど病状に応じた対応ができるように指導を行う。 等

①-1-2 学習内容の変更・調整

◎病気により実施が困難な学習内容等について、主治医からの指導・助言や学校生活管理指導表に基づいた変更・調整を行う。

- ・習熟度に応じた教材を準備する。
- ・実技を実施可能なものに変更する。
- ・入院等による学習空白を考慮した学習内容に変更・調整する。
- ・アレルギー等のために使用できない材料を別の材料に変更する。 等

①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

◎病気のため移動範囲や活動量が制限されている場合に、ICT機器等を活用し、間接的な体験や他の人とのコミュニケーションの機会を提供する。

- ・友達との手紙やメールの交換ができるように機会を設ける。
- ・テレビ会議システム等を活用したリアルタイムのコミュニケーションができるようにする。
- ・インターネット等を活用した疑似体験を取り入れる。 等

①-2-2 学習機会や体験の確保

◎入院時の教育の機会や短期間で入退院を繰り返す幼児児童生徒の教育の機会を確保する。その際、体験的な活動を通して概念形成を図るなど、入院による日常生活や集団活動等の体験不足を補うことができるように指導する。

- ・視聴覚教材等を活用する。
- ・感染症対策（ビニール手袋の着用）を考慮しながらの実体験を取り入れた指導を行う。
- ・テレビ会議システム等を活用した遠隔地の友達と協働した取組ができるようにする。 等

①-2-3 心理面・健康面の配慮

◎入院や手術、病気の進行への不安等を理解し、心理状態に応じて弾力的に指導を行う。

- ・治療過程での学習可能な時期を把握し健康状態に応じた指導を行う。
- ・アレルギーの原因となる物質の除去や病状に応じた適切な運動等について医療機関と連携した指導を行う。

等

②-1 専門性のある指導体制の整備

◎学校生活を送る上で、病気のために必要な生活規制や必要な支援を明確にするとともに、急な病状の変化に対応できるように校内体制を整備する。また、医療的ケアが必要な場合には看護師等、医療関係者との連携を図る。

- ・主治医や保護者からの情報に基づく適切な支援をする。
- ・日々の体調把握のための保護者との連携をする。
- ・緊急の対応が予想される場合の全教職員による支援体制の構築をする。
- ・巡回相談や専門家チームを活用する。
- ・定期的にケース会議を持ち、情報共有するとともに必要な合理的配慮について検討を重ねる。 等

②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

◎病状によっては特別な支援を必要とするという理解を広め、病状が急変した場合に緊急な対応ができるよう、幼児児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。

- ・ペースメーカー使用者の運動制限など、外部から分かりにくい病気とその病状を維持・改善するために必要な支援に関する理解をする。
- ・心身症や精神疾患等の特性についての理解をする。
- ・心臓発作やてんかん発作等への対応についての理解をする。 等

②-3 災害時等の支援体制の整備

◎医療機関への搬送や必要とする医療機関からの支援を受けることができるようにするなど、本人の病気に応じた支援体制を整備する。

- ・病院へ搬送した場合の対応方法を確認しておく。
- ・救急隊員等へ事前に連絡をする。
- ・急いで避難することが困難な幼児児童生徒（心臓病等）が逃げ遅れないための支援をする。 等

③-1 校内環境のバリアフリー化

◎心臓病等のため階段を使用しての移動が困難な場合や幼児児童生徒が自ら医療上の処置（二分脊椎症等の自己導尿等）を必要とする場合等に対応できる施設・設備を整備する。

③-2 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

◎病気の状態に応じて、健康状態や衛生状態の維持、心理的な安定等を考慮した施設・設備を整備する。

- ・色素性乾皮症の場合は紫外線カットフィルムを貼る。
- ・相談や箱庭等の心理療法を活用できる施設を整備する。
- ・落ち着けない時や精神状態が不安定な時の幼児児童生徒が落ち着ける空間を確保する。 等

③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

◎災害等発生時については病気のため迅速に避難できない幼児児童生徒の避難経路を確保する。

◎災害等発生後については薬や非常用電源を確保するとともに、長期間の停電に備え手動で使える機器等を整備する。